

まちづくり懇談会議事録

日 時：令和 3 年 11 月 19 日（金）18：30～20：11

場 所：鳩山中央公民館

出席者：8 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配付資料確認および日程説明

3. 懇談

（1）第 7 次総合計画の策定について（別紙 1・2 参照）

（2）自由懇談

4. その他（情報提供）

（1）国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（別紙 3 参照）

5. 閉会

《懇談内容》

【自由懇談】

町民：資料の人口推計ですが、この数値は端数がついているのですか。足していくと合わないところがあると思うが。

まちづくり総括：四捨五入の関係で、数値が若干合わない部分があります。

町民：町の財政の見通しのところで、直接関係ないかもしれないが町の固定資産税がありますよね。最近固定資産税の見直しがありました、私たちに何か影響があるのでしょうか。

総務課長：昨日、固定資産税の負担調整率がコロナの影響で抑えていたが、それがコロナの影響による固定資産税の評価額を上げるような制度をなくすという新聞報道が出ていたが、栗山の土地はここ数年ずっと下落傾向が続いており、その負担調整率というのは土地の評価額が平成 6 年からドンと上がった時があるんです。急激に上げると皆さんの固定資産税の税額がドンと上がるものですから、少しずつ階段を上って負担を少なくするように調整していきましょうという制度だったんですが、土地の下落が続いていたものですから負担調整について栗山町は使わなくなっています。ですから、今回新聞に載った負担調整率の抑制を廃止しますという記事は栗山町の土地は該当しません。昨年令和 3 年の評価替えを迎えているが、土地も住宅地 6%、農地でも 3%くらい評価額が落ちているはず。都市部で土地がどんどん上がっているところはその負担調整率というのが該当して、新聞記事でもあったようにそれがなくなると高くなることはあるが、栗山町を含む過疎地、土地が下がっているところについては影響しません。

町民：資料 2、若者定住対策は非常に大切なことだと思いますが、最近町の広報か何かで水道料金がすごい高いという意見を見ました。自分たちはずっと栗山にいるがその辺はど

うなのか。

町長：そのことについては皆さんから言われておりまして、全道の中でも栗山の水道料金は高い方に入っております。高い要因としては、過去にさかのぼりますと栗山ダムを建設したということがあります。それと水道の老朽管がかなり古くなってきており更新時期を迎えているものがある。これは全国的な問題で栗山町に限ったことではないのですが、その老朽管の取り換え工事を進めていかなければならないという中で、基本的にはそういう維持管理に関わる部分については、企業会計であるので料金と、施設整備であれば国の補助金などで対応していかなければならない。それで高い設定になっている。ただ、メリットと言えるか分かりませんが、ダムがあることによって安定的な水道水、安心な水道水が町民の皆さんにしっかり提供できるといったメリットもございます。そんな中で、ご理解いただきたいということで、毎回ご説明をさせていただいているんですね。今年も皆さんご承知の通り高温干ばつということで、かなりダムの水位も下がりました。そこで、節水のお願いは町民の皆さんにさせていただいたんですが、あと1週間から10日続くと、今度は減圧といって、出を抑えるような制限をかけなくてはならないようなところまでいったんですけど、かろうじていなくて済みました。他の川から出水している町はそういう担保がありませんので、今回みたいな干ばつとかなになると、かなり厳しい状況になる。それで水道料金が結構高いのでありますが、安定的な供給ができる町ということの中でですね、ご理解をいただきたいと思っております。

町民：若者定住対策と言ってやるときに、若い人たちが水道の料金が高いから住み辛いって言われるのが、一生懸命にやろうとしているのに。そこらへんをうまく、高いけどもっと他にいいところあるから来てよと言える町にした方がいいと思うんですね。

町長：町によっては、水道料金が高いとかデメリットというか住みづらい条件もあります。でも今言われた通り、水道料金は高いけれども、栗山町は子育て支援に関しては全道でもトップクラスだと思いますので、今は大体の町が高校生まで医療費の無料化をやっていますけど、1番全道で先駆けたのが栗山町なんですね。当時は中学校から始めましたが、今は高校までなってます。子育てしやすい町という事でそういう支援も充実していますし、若い方が栗山に来た場合の移住支援も充実しています。さらに1番僕が栗山はいいなと思うのは、児童施設が他の町から比べると本当に充実しております。保育所、認定幼稚園も4、5箇所ありますし、さらに町の子育て支援センター、そして児童センター、こういった子育てをする環境整備としてはすごく整った町でありますので、今ご提言あったようにデメリットを上回るような支援をやっていますので、そこをしっかりとこれからもPRしていきたいと思います。

町民：病院の改築なんですけど、残り15億円を30年間ってなると、単純に1年あたり5000万円。それは経営的に大丈夫だということですか。日赤は5000万円ちゃんと払いますということですか。

町長：栗山赤十字病院の今の経営状況は、以前のような厳しい状況から脱しましてある程度黒字経営。医療収支は赤字なんですけど、その他にいろいろと国から町を通して入ってきている補助金とか入れると相対的には黒字の年がかなり出てきている。経営状態としては、かなり改善されています。ただ、累積赤字がまだ30億ほど残っておりますので、それも年次で黒字になった年に返している状況なんですね。そういった中で、今ご心配された年間5000万ぐらいの負担を、栗山赤十字病院が今の経営状況でできるのかというお話

であります、実は、国側の公的病院制度が変わりまして、今 136 床ベッド数があるんですね。それを 100 床に下げるんです。無理に下げるんじゃないくて、今稼働率が 8 割くらいしかないで、今でも 100 ちょっとなんですよね。ベッド数を下げると、国からの補助金が逆にぐっと増えることになる。その増えた補助金を、町を通して栗山赤十字病院に交付するような仕組みをこれから取っていくんです。だから今 1 億ぐらい栗山赤十字病院に出しています。それは国から 7000 万ぐらい入って、3000 万プラスして 1 億出しているんですけど、これからは 1 億プラス、国からさらに 6000 万ぐらい入ってきますので、それにプラスして栗山赤十字病院に出す。その町から出したお金のうちから 5000 万返してということなので、町の実質負担も出ないですし、栗山赤十字病院も負担が増えるわけではありませんで、国の制度を有効活用して町と栗山赤十字病院と連携して改築を進めようという戦略というかですね。国の制度をしっかりと有効活用した中でやっていくということでは大丈夫です。

町民：建物を支援したわけだから、現金制度はないということじゃないんですね。

町長：町も国から全額 47 億円借り入れて栗山赤十字病院に出してあげるんですね。そして町が 47 億借りたうち 32 億については国から補助金が入ります。今の話は、残りの 15 億円をどうするかという話なので、それは今後 30 年間栗山赤十字病院に町から出したお金から払ってもらう。町は国から来たお金を出して、それを返してもらうだけなので負担にはならない。

町民：防犯灯のことなんですけど、昔防犯灯をつけた時代は建物何十戸もあって、議員さんあたりが表立って作ってくれたんだけど、今はそれが重みになっている。町の方も電気代または、LED に変えることによって 4 割は町で負担してもらっているんですけど、あまりにも現役の農家戸数が減りすぎて、かなりの電気料、それから壊れたやつを新しくすると 5 万近くかかる。外そうと思えば実費でやりなさいということで、聞いてきたらやっぱり 16000 円か、2 万円ぐらいはかかりますよということです。何件かしか持たなくなってそれがウェイトになって、外すにも外せない。LED にもできない。シャトレゼの方を見ると向こうは明るい。肝心の町民の生活道路とか、主要な道路の防犯等が切れたりしても大変。町の方で、全部寄贈しますので後の管理と電気代は持ってもらえないか。

町長：ここで即答することはできないんですが、確かに人口減少が進んでいく中でこういう地域の負担というのが、今の防犯灯についても負担になってきているというのは十分承知をしております。ここの地区だけではなくて、やはり他のところでも同じような傾向になっています。そんな中で防犯灯と道路照明、その区分けは混ざるわけにはいかないんですけれども、防犯灯については町内会・自治会の方をお願いをしてきたとあって、他の地域でも先行的に大変だけれどもお金を出し合って、LED に変えて何年かけて電気量で元を取っていくというようなところもあるんですね。今日は、先ほど申し上げましたとおり即答できないんですけども、一つの検討事項として、持ち帰らせていただきたいと思います。

町民：緊急事態宣言が本当に長く続くなか緊張のご公務の中で夜分もこういう機会を持っていただきましてありがとうございます。去年はメインが栗山赤十字病院のことだったものですから、先ほどの質問やそれに対する町長さんからのお話で、より具体的に分かりやすくなったかなというのでありがたいと思っています。独居老人になると本当に医療と冬の除雪とそれから交通というのが 1 人暮らしをしていく上で、自分の重い負担なん

ですよね。今回、家にじっとしているというのは何もいいことではなくて、ステイホームの中で本当に小人閑居にして不善をなすというか、こんなに次から次と自分の体が、自分で自分の病気を作っていくということが切実に思われまして。ただ、私の場合はたまたま恵まれていて、ホームドクターがとても的確な対応をしてくださるんですよね。そして栗山赤十字病院と、それから今年年末の体調不良の時に、1次、2次、3次をうまく機能させるというんですか。ですから、体調不良を訴えた時にすぐ栗山赤十字病院につないでいただいて、栗山赤十字病院からさらに送迎付きで精密検査という時に札幌市に送り迎えしていただいて、自分の中の安心感が非常に大きくなって、今現在までそれが続いてきているんです。ですから栗山赤十字病院が本当にうまく機能してくださるということが老人にしてみたらとても心強いことで本当に心からお礼を申し上げたい。入院を受け入れてくれる所はもう栗山赤十字病院しかありませんので、そこが再建されるというのは、みんなが言っています。私が知る範囲の中でみんないろいろ財政的なことがあるのが重々承知の上で、再建されるというのは喜んでいきます。ご尽力ありがとうございます。それと2つ質問よろしいですか。立地適正化計画ということにつきましてアンケートが来ました。返答はしたんですけれども、区域が1、2、3とアンケートの中では分かれていたり、それから中心拠点だとか、その周辺だとか、そういうところで、ここで例として出されているのが国交省のホームページだとか、札幌市や室蘭市では着手しますよと言うけれども。それでは、栗山町の私自身の住まいとの関係ではどうなるんだろうかというものが、アンケートに基づいて、さらにそれが具現化されて提示されていくんだろうと思うんですけれども、それって、どのぐらいの見通しで進むものなのかということがアンケートに答えながらすごく不安になったんですよね。先ほど言いましたように1人暮らしをするというのは医療と、それから除雪。ただ私はすごく恵まれていまして、除雪のことについては至れり尽くせりで、鳩山地区ではしてくださってるんです。だからもう大きな問題点は解決しているところがあるんですけれども、この適正化の問題では交通手段ですよね。そういうことも含めて、栗山町で実施するとどうなるのかという見通しなどを、いつか広報とかで提示されるんでしょうけれども、その辺が早くあれば嬉しいなというふうに思います。もう1点が、議会の改革でたまたま広報だとか、議会だよりを目の不自由な方にお届けするお手伝いをさせていただいているものですから、分からないことを読むのは結構大変なんですよ。例えば今回の広報で不時呼集という言葉が出てきたんですね。文字を見ると「不時呼集」と分かるんです。だけど、目の不自由な方に「不時呼集」というのをお届けするとなると、自分の中で分からないと、こういう漢字を使いますという解説を入れて録音するんですよね。そんなようなことで分からないことを伝えるというのは案外、自分の中でハードルが高くなるものですから、ちょうど議会改革の通年議会の導入だとか、文書質問の導入ということで、この前のパブリックコメントに参加させていただいたんです。そうすると、この通年議会の導入は今はそうではなくても、気持ちとしては同じなんですよというふうに説明されたんですけれども、実態としてそうあるというのと、はっきり条文として通年議会ですと言うと、議員さんに対する拘束力と言ったら変なんです。そうすると先日答申の中で議員報酬のことがなされましたよね。そうするとお若い方が議員活動だけで生活できる議員報酬のレベルではない。そうするとなかなか今なり手がない中で、さらにその上にハードな通年議会というふうになると、その辺行政の方の町長さん達とかいろんな方達のお立場がどうなるのかなというのがあったり、その次の

文章質問も、たまに都合つく時は議会を傍聴させていただくんですけども、ある意味で栗山議会のとても素晴らしい再質問だとかいう、言ったり言わなかったり、そういう緊迫感がありますよね。そういう中で、前総理大臣じゃないですけど、一生懸命答弁していても書いた文章を読み上げてただけだと批判されたように、この文書質問の導入がいい意味で働けばいいんですけども、栗山の町議会の素晴らしいやり方というのが形骸化されてかないかというような、そんなことも思ったりして、そういうことでは今、栗山の議員さん達が町長さんをはじめ、行政の方達ととてもうまくいってるなというのは分かるんですけど、コロナのような緊急事態の時の専権事項というんですか。そのようなことが議会との中で、通年で専権事項が行われないようにぱっと議会の方で招集して対応しますというふうになるとうまくいってる場合はいいけれども、そうでない議会も聞こえてきますよね。そういういろんなプラスマイナスというのを議員さん達は当然この前のパブリックコメントではご自分たちが提案することですから、いいことばかりをもちろんきちんと説明してくださいましたが、行政としてこの通年議会だとか文書のこと、どのように今現在で捉えられて進めようとなさっているのかお聞かせいただければと思います。

町長：まずは栗山赤十字病院の関係ですけど、これからこういう高齢化時代を迎える中で町民の皆さんに安心して診察も受けていただくというためには、本当に総合病院の存在というのは欠かすことのできない存在だと思っています。それぞれの町で総合病院を持つという時代ではありませんから、1市4町で一つ大きな病院を作る協議を進めていたんですけど、やはり政治的な部分もあって、それぞれの町が病院という町づくりにとっても必要不可欠なものですから、なかなか協議が進まずです。栗山赤十字病院が耐震性のない危険な建物だったので、やむなく単独で栗山赤十字病院の改築でいかざるを得ないということになって、後は1番問題になっていたのは財源の問題ですね。国の制度改正があったりして、病床数を実態に合わせてしっかり適正化した場合については補助金を多く出しますという制度改正もあり、その資金を活用できることになったものですから、一気に改築が実現に向かっていった。なんとかこれからも栗山赤十字病院の中心に地域医療を守っていききたい。栗山は開業医の先生もたくさんいらっしゃいます。そこともしっかり連携をして、介護施設、そして家庭と連携しながら、まずはこの栗山町内で1次の医療がしっかり組める体制を作って、そこで難しい場合は2次医療圏の岩見沢。そこで専門的な医療が必要であれば札幌など、全体的な連携も図って進めていくということで、栗山赤十字病院があることによって大きなメリットとしては、次に繋げてくれるんですね。北海道大学などと連携していますから、そういったところはいいかなというふうに思っていますし、今回の改築を契機に一步踏み込んでこの地域に役立つ病院になりたいという提案をしていただいています。今訪問看護ステーションもこの改築機会に作っていくと言っています。ですから、これから在宅の方も進んでいくことになるんですが、そういったところへの訪問看護といった事業も進めていくことになりますので、建物だけ新しくなっても中身と魂をしっかり入れてやっていかなければならないということで、その部分は栗山赤十字病院と連携して、町民の皆様にプラスになるように、この改築整備を進めていききたいと思っておりますので、よろしく願います。立地適正化計画のアンケート調査の関係ですが、これは計画を作るということは義務付けられている部分でもあります。そしてこの計画を作って何か事業をして

いくということではなくて、例えば今、錦地区の整備が進んでいくとか、馬追橋の架け替えに伴って少し町でも整備を進めたりするんですが、その他、町の中でもこれから人口減少時代を迎えて、もう少しコンパクトに町作りをやってくためには、この計画が必要なんですよね。この計画を作っておくと国の補助事業に乗れたりいろいろとメリットが出てきます。ですので本当に先の将来を見越した計画という位置づけをしといただければよろしいかと思います。今すぐ来年、再来年から本当に区画を整備しながら、栗山も空き地がかなりでてきています。そこを区画再編なんてやるのかというようなレベルの話ではまだありません。ずっと先の、先ほど人口減少の話がありましたけれども今 11300 いますけど、それが 6000 などになった時、今のままやっていくことはできません。将来を見据えて今回、唐突なアンケートを取らせていただきました。

町民：これを見た瞬間、自分はどこかに引っ越さなきゃいけないんだと思った。

町長：申し訳ありませんけど、作成せざるを得ないというのが状況だったものですから。もう少し前置きなどすれば良かったかなと反省しています。他のところも、そういう質問でご指摘をいただいたことがありましたので、そういう理解をしていただきたいと思います。議会改革の関係、僕の感触的なところをまずお話ししたいと思います。議会改革はですね、議会側から提案があったこと、そして行政と今協議をしながら進めているところでもあります。ですから通年議会の話もありましたけれども、実態としては今回通年議会にすると 1 年間ずっとということになりますけれども、今までも必要な都度定例会、そしてその間だったら臨時議会開いたりとやっていたんですけれども、ずっと全部通しでやって、僕はそんなことはしませんけれども、議会曰くいわゆる違う町長が来た時に、なんでも町長の先決でやってしまっ、議会に報告なんてことをされても困るということもいろいろあって、決め事を決めるためにはしっかり議論しようというのがあるんだと思います。それと文書質問も、一般質問のやり取りを見ていただいて活発だなというお話しをしていただいたんですが、僕もそう思っています。その中で一般質問の議論をさらに深めるための事前の文書質問が基本。だからいろんなやり取りが後退するようなことは一切ないというふうに考えています。我々もそうですけど、議会の方もやはり、いかに町民の皆さんのための行政であるべきか、あるいは議会であるべきかということを念頭に入れた今回の改革という風に私も思っています。

総務課長：議会改革の議案が来週 26 日に臨時議会が開催され、そこで議決を経て決定して、12 月 1 日から通年議会、令和 3 年度は 3 月末まで通年でやりますよという形になります。ご心配だったのが専決事項の話です。通年議会の場合は、急にこれまで議会招集することができなかった場合も、議長の招集で議員さんは次の日も集まるというようにお話をこの前されたと思うんですが、専決事項というのは、26 日の議会の方でもあらためて定められることになって、これまで 5 条ぐらいあったんですけれど、そこに 6 条くらい追加させていただいて、例えば災害の場合、新型コロナで緊急な予算が必要になった場合は議会招集をせずに、町長の先決処分という形で予算を立てさせてもらう、ということをして 26 日の議会でも先決事項の整理で議決される予定になっています。ですから、例えば災害で地震が起こって急な予算が必要になった、新型コロナで何か本当に緊急なものに限られるんですけれど、そういった予算が必要になったという場合は、町長の専決で予算編成をして、急な執行に備えることはできるように規定を残しております。

町民：栗山赤十字病院の事なんですけれど、循環器に通っているんです。他の曜日に行ったことはないですけど、月曜日はすごく混んでるんです。それで、患者さんだと思うんだけど、高齢者の方が立って待っているんです。看護師さんは忙しそうにやっているけども、患者さんが立って待ってるのは気の毒だなと思うんですよね。それと、今日役場の方は来ているんですけど、若い方も私は初めて見る方もいるんですけれど、若い方がこれだけいるし、地域おこし協力隊の方もいるから交流があると思うんですよね。だからこういう他の地域から来た人から、話はしてると思うんだけど、栗山のことはいろいろあると思うので、例えば栗山高校の問題などいろんな話をしていると思うんですよね。役場の若い職員の方とかいろんな話になってるのかなと。上の方だけで決めてるわけじゃないと思うけれども、課ごとというか、若い方とも交流の中で活性化の話は出てくるんじゃないか。問題点も含めて、いろんな意見が出てこないかなと、もっと煮詰めたらいいんじゃないですか。協力隊も含めてです。

町長：栗山赤十字病院ですね。月曜日は混んでますよね。僕も人間ドッグの再検査で行ったんだけど、座れないくらい。今ちょうどコロナの影響で間を空けているものですから、余計に椅子が足りなくて立ってらっしゃる方もいました。その中で、今回新しくなっていく中で1番指摘されていたのが導線の問題ですね。受付してからずっと廊下伝いに行くんですけど、高齢者の方も多いし、車いすの方もいるので、もう少し効率的な配置にしていけないかというご意見があって、今考えているのは真ん中に受付があって、放射線上に診療科ができるようなことを考えておりますので、また来年1月に設計の入札がありますので、そこでどのような提案がされてくるかというところもありますけどもその導線はしっかり利用しやすいようにしていきたいなという風に思います。それとスペースもかなり取っていくようにしますので、今までのように高齢者の方が立って待つことにはならないように配置もしっかり考えていきます。そのことは僕も頭に入れて審査に臨みたいと思っております。

町民：新しい病院にははなると思うんだけど、今現在がもう立って待ってるからなんとかならないか。コロナの影響で、席はあるんだけど座れないというのがあから。簡易的な折り畳み椅子でも出したらどうかと思うんです。一時だと思うんだけど。

町長：栗山赤十字病院の方に意見があったことを申し入れしていきたいと思います。確かに折りたたみ椅子でもあればいいかもしれませんね、皆端の方に立ってますから。あと、若い職員との交流ですね。我々も計画を作って事業を進めていくというところはなるべく若い方の意見も吸い上げるような仕組みを取っていますし、実際に事業を組み立てる場合は若い方々が起案をして、それをみんなで意見を出し合いながら積み上げて正式なものにしていくという積み上げ方を役場は採っておりますので、物にもよりますけれども、上の課長などが全てを決めていくという訳ではありません。それと、先ほど地域おこし協力隊の話がありました。私も特に先ほど申し上げたレンガ倉庫のところでやっているこれから賑わいの拠点を作っていく議論をしているのは10名ほどの地域おこし協力隊のメンバーと、若手を含めた町職員です。元の岡島さんのところに入って議論しながらやっています。あの10名は本当に素晴らしい能力を持った方々が集まっていたかったです。普通は地域おこし協力隊は募集をかけ、あまり用途を決めないんですけれど、栗山の場合はこういった目的のために集まってくださいというような面接試験をしていますので、本当にこれから栗山町がこの施設で展開する事業を成功するために集め

た 10 人という位置づけなんです。あの人たちがプロフェッショナルとして、これから関わっていただけるような仕組み作りをしていきたいと思っています。なかなか一気に 10 人も優秀な方が、栗山に来てくれるなんてケースはありませんので、そういった新しい風を町に入れながらしっかり町づくりをやっていく、そこが一番大事なところなのかなと思っています。

20 : 11 終了